

日本国際理解教育学会会報

JAPAN ASSOCIATION FOR INTERNATIONAL EDUCATION NEWSLETTER

Vol. 10 1996年度No.2 1997年2月10日

編集発行：日本国際理解学会事務局

〒151 渋谷区神南1-22-8渋谷東日本ビル8F JFIE日本国際交流振興会内 tel 03-3770-7307 fax03-3496-8875

目次

平成9年度第7回大会開催のお知らせ

1996年度 研修会のご報告

理事会報告

その他のお知らせ

平成9年度第7回大会開催のお知らせ

第7回大会準備委員長 中西 晃

すでに御案内のように日本国際理解教育学会第7回大会は、以下の通り開催されます。多数の皆様のご参加が得、活発な大会になることを願い準備委員会委員一同、全力をつくして大会の運営にあたりたいと思い準備を進めているところです。なにとぞよろしくご協力のほどをお願い申し上げます。なお、会場の目白学園女子短期大学は、JR高田馬場駅より西武新宿線に乗り換え2つ目の中井駅より徒歩10分程度の新宿副都心に近いところにあります。ただ、キャンパスは中・高等学校の建物改装中ですので何かとご不便をおかけするところがあるかと思いますがお許し下さい。また、プログラムは5月初旬には出来上がりますので作成次第、大会申込書とともに送らせていただきます。

1. 期日：平成9年6月14日（土）・15日（日）両日とも10時よりの予定
2. 場所：目白学園女子短期大学
〒161 新宿区中落合4-31-1
Tel. 03-5996-3128/Fax 03-5996-3050
3. 内容：自由研究発表（両日とも午前中）のほかに次のものを企画しております。
 - (1) 課題別討論会（6月14日午後）
 - ①地域の特性を踏まえた国際理解教育
 - ②直接交流による国際理解教育
 - ③環境に働きかける国際理解教育
 - (2) 公開シンポジウム（15日午後）
総合学習としての国際理解教育をいかに実践するか

1996年度 日本国際理解教育学会研修会のご報告

研修会実行委員長 城戸 一夫

1996年度の研修会は、11月30日（水）、東京都葛飾区の柴又小学校に於いて開催されました。

今回の研修会は、国際理解教育に関わる研究者と実践者が多く参集している本学会の特質を生かし、実際の授業を研究者と実践者がともに参観し、多様な角度から協議を深めることにより、国際理解教育の課題や向かうべき方向を明らかにしていくことを意図して開催されました。

小学校を会場とし、授業と中心とした研修会は本学会としても初めての試みであり、参加者の多少が危惧されました。しかし、当日は、学会員80名、会員外の教育関係者42名、合計122名の参加者を得ることが出来ました。参加者は、研究者、実践者に加え、国際機関職員、大学院生、学生、出版・報道関係など多彩であり、また名古屋や北海道などからの参加もあり、この教育への各界の関心の高さが窺えました。

研修会は、午前中には3つの公開授業が行われ、午後からは各教室を会場にして分科会での討議がなされました。分科会終了後、体育館において全体会が開かれました。それぞれの概要を記します。

公開授業

公開授業A（2年生 生活科の実践）

授業者 橋本 昇教諭

授業は次のように展開されました。柴又地域のお年寄りを教室にする。子どもたちが自己紹介する。お年寄り子どもが話し合ったり、昔遊びをする。最後に子どもたちがお礼の言葉を述べるというプロセスでした。この授業のねらいは、子どもたちが、お年寄りとの交流を通じて、コミュニケーション能力を高め、またお年寄りから生きる知恵を学び、やさしい人柄にふれ、人間理解を深めていくことにありました。

公開授業B（4年生 クロスカリキュラムによる実践）

授業者 合津 郁夫教諭

授業は次のように展開されました。子どもたちが三宅島から送られてきたビデオレターを視聴する。季節の遊び、テングサ取りの仕事、漁師の人々の仕事ぶり、あしたば栽培などの様子を見取り、自分たちの生活との相違点や共通点を見つけていきました。自分の発見や感動、驚きなどをワークシートに記録し、また発表するというプロセスをとりました。この授業のねらいは、日本国内の身近な地域を素材にして、異文化理解の素地を育むことにありました。

公開授業C（6年生 総合的時間の実践）

授業者 瀧 淳一 教諭

授業の展開は次の通りでした。「ごみ問題」「野生動物の減少」などについて調査した結果を担当グループが発表しました。各グループは、写真、図表、実物などを示しながら発表を工夫しました。全てのグループの発表の後は、児童各自が興味あるグループの場所に自由に行き討議し、最後に全体で話し合いました。

この授業のねらいは、児童が主体的に学び、参加する学習を通して、地球環境への関心を高め、また問題解決能力、討議能力、情報活用能力などを身につけることにありました。

授業の実際は詳記できませんが、各授業では、活動の場の工夫、ワークシート等の資料の準備等さまざまな配慮がなされていました。

授業計画立案にあたっては、2度にわたり座長の方々と授業者などが協議する会を持ちました。

なお、公開授業の展開や子どもの活動の様子につきましては、分科会報告も併せてご高覧ください。

分科会

分科会での討議内容について、各座長の報告を掲載します。

分科会A 座長 久保 真季 池田 恒宏

第一分科会では、子供たちが近所のお年寄りの方々から昔の遊びを覚えてもらうという授業をもとにしましたが、「そもそもこの授業の何が国際理解教育なのか」から議論は出発しました。

授業を担当された橋本先生から、ねらいとして、コミュニケーション能力の育成と人間理解との説明がありました

が、国際理解の基盤として、自分と他者を繋ぐコミュニケーション能力が必要であることは異論ないでしょう。分科会では、必要なコミュニケーション能力として、話す力ばかりでなく、話すことを前提とした聴く力や感じる力も必要であるとの意見や、コミュニケーション能力の育成のためには、会話が楽しくなるような工夫が必要との意見が出されました。そして、感じる力（共感する力）が人間理解へと発展し、異文化理解・自文化理解につながることで共通理解されました。

国際理解教育と言うと外国のことを念頭に置いた授業が多い中で、ここでは、外国のことは何もありません。しかし、世代間の交流を通して、自分と異なるものの理解を追及しています。そして、学校全体として、自分と異なるものを年齢に応じて広げており、こうした綿密に練られた計画があつてこそ、これらの授業が国際理解教育と言えます。

自分と異なるものを理解し、違いを認識しながらも共感し、自分と他者を再びつなぐことです。これは、国際理解教育の根幹ですが、「違い」についての認識が固定的であってはなりません。例えば、昔の遊びから類推してお年寄りにはハイテク商品に弱いとは言えないのであり、匿名でない相手に対し、偏見なく向き合えることが大切でしょう。

いずれにしろ、研究者と教員等が一堂に会し、教育が展開される場である学校で学会が開催されたことの意義は大きいと思います。ご協力いただいた柴又小学校の皆様にも厚く御礼申し上げますとともに、日本国際理解教育学会の今後の更なる実践的な取組みを期待します。

分科会B 座長 樋口 信也 八重沢 勇一

台津先生による三宅島の子供とのビデオレターによる授業であつた。授業後の分科会は、きわめて活発かつ意義ある話し合いが行われました。その概要を記します。

まず授業でビデオレターを活用しての教育効果について議論がなされました。授業者より、ビデオレターの活用により、子供たちが授業に興味を持ち、授業後も、もっと知りたい、こんな勉強をしたいとの声が多かったこと、また遊びや島の人々の暮らしなど、部分ではなく島全体について学習できたよさがあつたこと、ビデオレターづくりによって島の人々が改めて島の生活を見直す契機になったこと等が話されました。

次いで参会者から発言が相次ぎ、生活者の視点から島の暮らしを学習したよさ、身近な地域にも自分たちとは違う生活をしている人々がいること、言語も微妙に違うことを発見させたことは国際性を育てる基礎づくりにつながるなどの発言がありました。

やがて、論議は、国際理解という視点から、子供たちに身につけさせた資質に・能力について話し合いに発展しました。その中で個の確立の必要、創造力、批判力、判断力の必要性が指摘されました。さらに、そうした資質・能力を子供たちに身につけさせるための学習の在り方について活発に意見がだされました。子供の発達段階に応じた指導、一時的でない継続的な学習の必要、ワークシートなど教材の工夫、座席など学習環境への配慮、こうしたことにより、子供たちの個性を伸ばし、コミュニケーション能力や国際性の素地が育っていくのではないかとの意見が出されました。

議論の中、国際理解教育には、主体性と連帯、自立と調和が重要である、教師の生き方が問われる、共生社会の到来にむけ、諸外国と日本との結びつきを知らせ、地球的課題の解決にむけ具体的に行動する子供育成が必要等の示唆に富む指摘もなされました。

今回のような研修会のもち方は、国際理解教育の研究・実践の向上にきわめて有効なことであることが、上記の論議で確認されたように感じました。

分科会C 座長 渡部 淳 宇土 泰寛

C分科会の参加者は、幼稚園から小・中・高・大学までの教員、マスコミ・社会教育関係者、学生など広い分野の方々でした。「授業を素材に自由に語り合う」という企画にふさわしい、多様なメンバーでした。また23名とい

う比較的発言しやすい規模だったこともあってか、和やかな中にも活発な討議が最後まで続きました。

ディスカッションの素材を提供していただいた灘淳一先生の授業は、次のような展開です。まず「ごみ問題」「野生生物の減少」「森林減少と砂漠化」という3つのトピックをめぐって、担当グループがそれぞれに発表を行います。それを受けて生徒全員が3ヶ所に分かれ発表資料を見ながらグループ討議をします。そして最後にクラス全体で話し合う、というプロセスです。灘先生の授業の様子は、NHK教育テレビ「教育トゥデイ」（1月25日放送）の中でも紹介されているのでご覧になった会員も多いかと思えます。

子どもたち自身が撮影したというビデオ資料や豊富な展示資料をみると、彼らがりサーチ・ワークを楽しみながら行なっていることが良く分かります。また、スモール・グループでもホール・グループでも、実に伸び伸びと発言する子どもたちの姿が目立ちました。これらの点は、参観者にとくに強い印象を与えた部分です。

このためもあってか、分科会ではまず「自己表現力」をめぐって、話し言葉の指導の大切さ、自由に話せる雰囲気をつくる教師の役割、子どもの体と心をとときほぐす指導の経験など、実に多彩な発言が続きました。また一方では、授業で環境問題を取り上げる場合ともすれば建前論に始終しがちですが、子どもの生活に密着した問題だと彼ら自身が気づくようになれば、それが「自分という人間」に向きあうきっかけにもなるという指摘もありました。さらに「学習スタイル」をめぐっても、教室の枠を越えて行われるフィールド・ワークなどの活動が、さまざまな社会的アクターとの接触を促し、同年齢集団の世界に閉じこもりがちで子どもの世界を広げていく役割をするのではなか、などの視点もだされました。

時間はあっという間に過ぎてしまい、まだまだ話したいという余韻の残る会でした。

全体会

全体会は、研修会実行委員長の城戸一夫理事の進行ですすめられました。

1 開会の挨拶

まず開会の挨拶があり、中西 晃理事が日本国際理解教育学会を代表して、本研修会を開催するにあたり、葛飾区立柴又小学校のご協力をいただいたことへの謝辞が述べられました。また中西理事は、挨拶の中で今回の実際の授業を中心とした研修会が、今後の国際理解教育の方向を明らかにしていく、きわめて貴重な研修の機会であると、本研修会の意義を強調されました。

2 スタディーツアーの報告

ついで1996年8月に実施されたスタディーツアーの報告が行なわれました。最初に団長を務められた千葉 果弘理事より、スタディーツアーの概要の報告がありました。この中で千葉理事は、各国際機関の方々の厚意あふれる対応により、今回スタディーツアーが参加者にとって予想以上に大きな成果を上げる機会となったことを報告されました。

次いで、参加者を代表して工藤 佑子、森山 大光の両会員からスタディーツアーを体験しての報告がされました。両会員は、スタディーツアーでは、国際機関の役割や機能、国際理解教育等について学ぶ、充実した研修が行なわれたこと、参加者とユネスコなどの各機関を代表する方々との交流の機会も多くあり、深い感銘を受けたことを報告されました。

なお、紙幅に限りがありここではスタディーツアー報告の全部を記述できません。参考までに行程及び参加者の感想を掲載します。このスタディーツアーの報告は報告書にまとめられていますので、ご関心のある方は学会事務局にお問い合わせ下さい。

<国際理解教育スタディーツアー訪問先リスト>

8月21日(水)

9:30 UNOV (United Nations Office at Vienna/国連ウィーン事務局)

A-1400 Vienna, Tel. 43-1-211310

ユネスコ代表部表敬訪問

Mr. Sack & Mr. Abtahi

10:00 UNDCP (United Nations Drug Control Programme/国連麻薬統制計画)
「世界の麻薬問題について」 Mr. Luis Manneco-Jenkins

Mr. Tomiji Mizutani (水谷富次氏)

11:00 UNIDO (United Nations Industrial Development Organization/国連産業
開発機構)

「世界の産業開発について」 Mr. Uriu and Mr. R. Cox

8月22日(木)

15:00 IBE (International Bureau of Education/国際教育部門)

15 Route des Morillons 1218 Grand-saconnex, Geneva Tel. 41-22-798-1455

「1994年国際教育会議の国際理解教育に果たした役割」 Mr. J. Adamet

8月23日(金)

10:00 - 11:00 WHO (World Health Organization/世界保健機構)

20 Avenue Appia, 1211 Geneva 27 Tel. 41-22-791-2111

Mr. Takiyoshi Shibata (柴田 希好氏 WHO library)

11:15 - 12:15 ILO (at IBE) (International Labour Organization/国際労働機関)

4 Route des Morillons, Geneva Tel. 41-22-799-6111

Ms. Nana Oishi (大石 奈々氏 Research Officer, Salaried Employees and Professional Workers Division)

14:30 - 15:30 UNHCR (United Nations Commissioner for Refugees/国連難民高等弁務官事務所)

94, Rue Montbrillant, CH-1211 Geneva Tel. 41-22-739-8111

Mr. Nagasaka Kazutoshi (長坂 和敏氏 Desk Officer, Regional Office for Asia and Oceania)

16:00 - 17:00 UNV (United Nations Volunteers/国連ボランティア)

Palais des Nations 1211 Geneva 10 Tel. 41-22-734-6011

Mr. Ken Inoue (井上 健氏 Programme Development & Management Officer)

8月26日(月)

10:30 - 12:00 UNESCO (United Nations Educational, Scientific, and Cultural Organization/国連教育科学文化機関)

7 Place de Fontenoy 75700 Tel. 33-1-4568-1000

ユネスコ内部見学 (国際理解教育学会理事 相良氏同行)

12:30 - 14:00 UNESCO内レストランにて昼食

15:00 - 18:00 国際理解教育講座 (ユネスコにて)

1. 「ユネスコの教育全般について」

Mr. Rissom, Education Sector

2. 「国際理解教育の現状」

Ms. K. Savolainen, Mr. Smirnov, Section for Humanistic, Cultural and

International Education)

3. 「ユネスコ協同学校について」

Mrs. S. Niedermayer-Tahri, Coordinator, Associated School Project

4. 「戦争の文化から平和の文化へ」

Ms. Micha Mills, Director, Culture of Peace Programme

5. 「人権と平和 (社会科学の立場から)」

Mr. J. Symonides, Director, Division for Peace and Human Right

18:30~ レセプション (ユネスコレストランにて)

<参加者からの感想>

今回の旅は私にとって「百聞は一見に如かず」でした。実際の国際機関の中に入り、そこで働いているさまざまな国籍の人達を見、接し、その雰囲気に触れる体験はまたとない貴重なものであったと思います。また、千葉先生の解説と補足は簡にして要を得、我々の理解促進に非常に有益でした。(平沢 信康)

何と言ってもIBE訪問とUNESCO本部での各部門の講義は一番興味深く参考となりました。WHOでは初等教育での予防教育教材化と実践の必要性を痛感しました。ユネスコでは思いやりや共生の心、責任感等の育成の重要性を感じました。(加藤 佳津子)

今回の旅行を終えて、私なりのアクションを起こしています。例えば、UNDCPで紹介のあった財団法人麻薬・覚醒剤乱用防止センターから教育・啓発活動の概要を伺いました。これを地域の国際理解教育、多文化教育に活かしていこうと思っています。また、日本人の国連職員の方々にも日本の多文化共生社会へもっと目を向け協力をいただければと思います。(川村 千鶴子)

大変意義深い旅でした。国連機関の名前は知っていても、それらがどのような所であって、どのような人達により、どのような仕事をしているのか、理解の外だったのに、そのどれにも接することができうれしき限りでした。「地球家族として」とか「運命共同体」といわれる現在、各国の問題は国連の問題であり、またその逆も同様に、一つとなって考えていく必要を切に感じました。(芦田 順子)

数多くの機関の視察を通し、グローバルな立場で国際情勢を知ることができました。深く感じた事は、盛んに唱えられている日本の「国際化」が海外ではほとんど評価されるに至っていないという事実です。また、ユネスコを訪問するという私の長年の夢が叶いました。私たち日本人にとって大切な事は、利益を優先することではなく、前向きな心と、相手を思いやる心の暖かさを再確認することだと実感しました。(廣内 裕子)

このツアーに参加して多くのことを教えられました。教育が集団の利益を維持するため後継者として子弟を訓練することからはじまり、やがて、個人の内的成長を助けることを目的とする新教育思想が生まれて変化し、一国の利益に奉仕する教育から、全体の共生、さらに今は環境に対する危機感から地球全体の存続のための教育が問題にされているのを知りました。(小岩 哲郎)

スタディツアーを通して、教育について様々なことを考えました。21世紀を目前に、教師も児童も、「同じ人間として何が大切なのか」とか、「平和な社会とはどんなものか」等をひとりひとり考える学習が今大変重要だと思っています。「共生」が理性、理念と同時に大切であるということ、他者の意見、生き方を受容するような理性に対して感性、理念に対して寛容、博愛といった連帯感が必要だと思いました。(工藤 佑子)

ユネスコの業務に携わっている私にとって、ユネスコという存在が以前よりも近く感じられるようになりました。ユネスコやIBEを訪問し、そこで活躍する職員に話をうかがって国際理解教育について考えました。(保明 昌恵)

国際理解教育の先にある具体的な日本人像として国際機関で働く人々の姿と、働く中で考えている本音は同なのかを知りたい...と。国際的中立の立場で自分を律していかなければいけない人々に無遠慮なことを聞いた自分。それを柔らかく受けとめていただいた千葉専制と関係機関の方々へ深く感謝します。今後の国際理解教育への取組みを心新たにすることができました。(森山 大光)

3 分科会報告

各分科会の話し合い内容を全体で共有するため、分科会報告がなされました。分科会Aについては久保真季、分科会Bについては樋口 信也、分科会Cについては渡部 淳の各座長の方々へ報告されました。報告内容については、「分科会」の項をご高覧ください。

4 全体のまとめ

分科会報告をふまえた質疑応答の後、川端末人本学会副会長より全体のまとめが行なわれました。川端副会長は、まず柴又小学校が7年間にわたる国際理解教育の実践教育を継続されてきていることをご紹介されました。次いで、今回の研修会のような授業を中においた研究は、おそらく日本の学会でも希有なことであり、それだけにこうした研修会の開催には大きな意義があると述べられました。その上で、学会として実践研究にどのように寄与していくのか、今後の学会の在り方が問われていくのではないかと指摘し、まとめとされました。

なお、本研究会の実施にあたり、柴又の地域の人々の国際性に関する調査を行いました。この調査により、柴又地域の人々の国際社会への関心が高いことなどが明らかになりました。この調査の結果は研修会の当日に配布しました。詳細をお知りになりたい方は、学会事務局にお問い合わせください。

懇親会

研修会後の懇親会は、柴又小学校内の家庭科室で開かれました。柴又小学校の柴田泰夫校長先生より歓迎のご挨拶をいただき、その後は和気あいの雰囲気の中で参会者相互の交流がなされました。地域の方々やPTAの方々も参加して下さい、また手作りの料理が出され、いかにも下町らしい人情味あふれる懇親会となりました。会の半ばで授業者と同学年の先生方より、授業計画作成までの苦心やさまざまな討議の様子も披露され、多くの先生方の協働により研修会での授業が行なわれたことを知りました。やがて、またたく間に2時間がすぎ、なごりを惜しみつつ散会しました。参加者は78名でした。

研修会の開催にあたり、各会場の設営、掲示、参会者の案内から後片付けまで、会場校の教職員やPTAの方々を中心に活動して下さいました。こうした心温まるご協力なくして今回の研修会は開催できませんでした。参会者一同、深く感謝した幸いです。

理事会報告

第2回常任理事会

期日：平成8年9月29日(日)

出席者：天城、川端、天野、城戸、佐藤、島、多田、千葉、中西、米田、渡部、安藤

議題：

報告事項：

(1) 紀要編集の進捗状況報告

原稿の受理状況が報告され、昨年度より早めのスケジュールで、今年度中を目処に内容の最終決定する。

(2) ニュースレター第9号発行について

9月5日の第9号発行が報告された。内容等に関する提案があれば総務担当・事務局に寄せて欲しい。

(3) スタディツアー報告

8月後半に実施された同ツアーについて報告がなされた。感想文またはレジメ等の資料をどう会員と共有するか継続協議することとなった。

(4) 科学研究費プロジェクトの進捗状況

進捗状況が以下の通り報告された。

- 研究資料について
- ①国連・ユネスコ関係資料班 ユネスコにおける国際理解教育の変遷資料作成、1946年～1996年までの資料を再度リストアップする。また、スタディツアーで収集した資料を整理する。
 - ②日本ユネスコ協同学校関係資料班 文部省よりのユネスコ国際理解教育・協同学校事業に関する公的出版物一覧表の作成、筑波大学附属学校教員の「ユネスコ教育実験をめぐって」の収集、その他協同学校関係の資料収集を行なう。
 - ③理論的研究資料班 各学会・大学の紀要・主たる雑誌より国際理解、異文化理解等のキーワードにより文献を検索し、資料集を作成した。
 - ④教育実践的資料班 全国の国際理解教育実践校の報告書約900点を学会員約50名に分析作業を依頼して平成9年3月にまとめる。

(5) 大会会計報告

資料にもとづいて報告がなされた。

(6) 上半期学会会計報告

公文国際奨学財団より研究委託費の振込があった。同財団からの委託費は毎年学会の研究活動を促進する大きな役割を果たしているため感謝の意を表したい。

また、未収会費が多く、学会として会費収入を増やす努力が必要である。

審議事項

- (1) 平成8年度研修会実施について
研究授業という学会としての初めての試みを含め、実施案が審議された。
- (2) 第7回総会・研究大会について
課題別討論会など新し試みを入れた開催案が提案され、審議された。
- (3) 入会申込み審査 申込みのあった方々について入会が承認された。

第2回理事会

期日： 平成8年12月22日(日)

出席者： 天城、川端、新井、柿沼、城戸、島、多田、千葉、渡部、中島、中西、米田、安藤

議題：

報告事項

- (1) 紀要第3号の編集進捗状況について
投稿原稿8本のうち1本が「内容の変更」依頼の扱いとなったが、執筆者が辞退したこと、実践研究(2)、書評(2)、新刊紹介(2)、資料等(4)及び依頼原稿から構成されることの報告があった。
- (2) 平成8年度研修報告(詳細はこのニューズレターの前頁参照)
- (3) スタディツアー報告(同上)
スタディツアーの報告書が小冊子としてまとめられたことが報告された。この小冊子は500円で配布している。6月の大会のときでも求められる。
- (4) 科学研究費プロジェクト
11月23日に研究会があり、前静岡大学・前宇都宮大学教授佐藤照雄氏より、「1970年代より80年代前半にかけてのわが国の国際理解教育の動向」についてレクチャーを受け、引き続き研究の進捗状況の報告があった。
 - ①国連・ユネスコ関係資料班 現在までに収集した資料・文献を大学院生に整理、分析作業を依頼し実施している。
 - ②日本ユネスコ協同学校関係資料班 永井滋郎氏より所蔵の文献を寄贈していただき、また和文・英文・仏文の資料を収集し、一覧表を作成した。
 - ③理論的研究資料班 収集した文献をリストアップし、そのアブストラクトの作成にとりかかり、データベース化をはかっている。
 - ④教育実践的資料班 現在学会員に収集した報告書の分析を、分析表に記入する作業を依頼中である。
- (5) 8年度予算の執行状況について
会員の会費未納入者に対して次回ニューズレター発行時に納入の再依頼をすることとなった。
国際委員会の予算が約5万円超過しているが、この分を支出として認める。

審議事項

- (1) 第7回総会・研究大会について
実施要項案にもとづきテーマ・内容が審議された。これを踏まえて、準備委員会に最終決定を委託することとした。
- (2) 平成9年度事業案について
 - ①紀要 投稿資格や特集テーマ等についての方向性を今後検討したい。
 - ②研修会 来年度続行という形で、次回理事会で継続審議。
 - ③スタディツアー 学会として継続事業とすることで、前向きに考える。
 - ④科研報告 全員を対象にフィードバックする機会をつくる。

お知らせ

★ 会費納入のお知らせ

紀要をはじめ当学会の活動費は会員の皆様の会費でまかなわれておりますので、会費未納入の会員の方は会費をお支払いください。会費は年額5000円、入会金は2000円です。

郵便振り込み口座 口座番号：00120-5-601555 名義：日本国際理解教育学会

★入会・退会のお知らせ

以下の方が96年7月～96年12月の間に入会されました。

桜井高志 (桜井・法貴グローバル教育研究所)	中山博夫 (名古屋市立猪子小学校)
八重沢勇一 (神奈川県教育センター)	池田亘宏 (千葉市教育センター)
藤本規夫 (広島文教女子大学)	倉石一郎 (京都大学大学院 人間・環境学研究所)
廣内裕子 (大阪外大留学生日本語教育センター)	佐々木栄子
伊地知紀子 (大阪市立大学大学院文学研究科)	ゲリク リーク (広島大学教育学部比較教育制度学研究室)
アイ アイ チョー (広島大学教育学部比較教育制度学)	矢野純子 (日本国際交流振興会)
向出佳司 (PL学園女子短期大学)	荻野治雄 (東京家政大学)
田淵 仁 (奈良教育大学大学院)	野口 昇 (ユネスコ本部)
和田俊彦 (帝塚山学院泉ヶ丘中・高等学校)	石崎厚史 (大阪市教育センター教育研究室)
岩本廣美 (奈良教育大学教育学部)	新里 眞男 (文部省初中局中学校課)
大杉千恵子	香西 武 (繁藤小学校)
高橋 豊 (川崎市立王禅寺小学校)	滝多賀雄 (川崎市立長沢中学校)
末永明義 (船橋市立三山東小学校)	綱田活廣 (東京都千代田区立富士見小学校)
青木 一 (千葉市立犢橋中学校)	川口 修 (東京都千代田区立番町小学校)
合津郁夫 (葛飾区立柴又小学校)	灘 淳一 (葛飾区立柴又小学校)
茂木 喬 (文部省)	初海 茂 (八王子市立川口中学校)
棚橋和正 (東京都港区立港陽小学校)	

以下の方が96年7月～96年12月の間に退会されました。

藤岡和子 (江戸川区立本一色小学校)	榎 豊 (秋田南高等学校)
寺尾 純 (富山県立泊高等学校)	田中 実 (平安文庫)
横山十四男 (東京家政学院大学)	酒井峰男 (岡山大学)
中野将誉 (愛媛県総合教育センター)	岩澤里美 (上智大学大学院)
仲間宣之	

★ 寄贈文献・図書

次の通り文献の寄贈がありました。

- ①東京学芸大学教授 佐藤郡衛氏より同氏監修の国際化時代の教育シリーズ「世界と対話する子どもたち」一国際理解教育とディベート 創友社
- ②財団法人日本ユニセフ協会より「1996年版 ユニセフ視聴覚ライブラリー」
- ③千葉果弘氏より同氏編集の「なぜ識字か 発展途上国の現状」および「Nostalgia for the Place de Fontenoy」
- ④睦学園 睦神戸国際教育センターより日韓(韓日)合同教育研修会報告書および第3回日韓(韓日)教育国際会議 発表資料集
- ⑤現代子ども国語表現力研究会事務局より小学生の「国語教育」と「国語力」実体調査報告書「平成っ子国語遁走曲」
- ⑥永井滋郎先生より寄贈：永井教授所蔵にかかわる協同学校関係文献一覧

協同学校報告関係

「国際理解の教育」実験報告書 実験題目 1954年度 昭和29年度原爆と平和 1955年度 昭和30年度 英国中学生の生活について わが国における女性の地位について (広島大学教育学部附属中学校) 昭和30年度ユネスコ特定実験報告書 実験題目 1. 英国の中学生の生活について 2. わが国における女性の地位について (広島大学教育学部附属中学校 1956.3.20) 国際理解と国際協力のための教育 ブラジルについて 研究報告(3) (島根県益田産業高等学校) "国際理解の教育" 実験報告書 赤十字の研究 1956年度(昭和31年度) 2冊あり (広島大学教育学部附属中学校 1957.2.10) 国際理解と国際協力のための教育—教育実験報告 (広島大学教育学部附属高等学校) 国際理解と国際協力のための教育 研究報告(1) (島根県立益田産業高等学校) 1957年度ユネスコ特定実験中間報告書 高校性の人権意識を向

上させる方法についての実験的研究 (東京教育大学付属高等学校ユネスコ委員会 1958.1.22) 「国際理解と国際協力のための教育」の研究報告書II 昭和33年3月31日現在 (高松女子商業高等学校) 関屋中学における国際理解テストII (人権意識テスト) 使用の結果について (新潟ユネスコ協会) 国際理解と協力の教育実験報告 (I) - 1958年10月より1959年3月までの実施 (広島大学教育学部 1959.6) 「国際理解と協力のための教育」研究教育実施報告III (そのII) (帝塚山学院中学校) アメリカ合衆国の研究 - 日本を含めたアジアとの関連において - 1959-60年度国際理解と国際協力のための教育 (中間報告) (広島大学教育学部付属中学校 1960.3) 国際理解と協力の教育実験報告 (II) - 1959年4月より1960年3月までの実施 (広島大学教育学部 1960.6) Report on the Experimental Education for International Understanding and Co-operation (2) Apr. 1959 - Mar. 1960 (Faculty of Education, Hiroshima University) 国際理解と国際協力のための教育 国連の研究-日本人としての立場から (広島大学教育学部付属高等学校 1960.7.1) 「国際理解と国際協力のための教育」活動報告書 昭和35年度 (福島県白河女子高等学校 1961.2.10) 「国際理解と国際協力のための教育」昭和35年度実践報告書 (福島県須賀川市立第二中学校 1961.2.15) 昭和35年度ユネスコ協同学校報告書 人権の研究-人類愛について (川崎市立住吉中学校 1961.4) 本校における国際理解と国際協力のための教育 研究報告 (第5号) (宮城県遠田郡田尻町立大貫中学校ユネスコ委員会 1961.4.30) 国際理解と国際協力のための教育研究報告 昭和36年3月 (京都府宇治市立西宇治中学校) ユネスコ協同学校活動報告書 1961 (茨城県土浦市立土浦第四中学校 1961.5.1) 国際理解教育報告書 1961.3 (帝塚山学院中学校) 昭和36年国際理解と国際協力のための教育研究 問題行動生徒の人権意識の改善 (徳山市立太華中学校) 国際理解と協力の教育実験報告 (III) - 1960年4月より1961年3月までの実施 (広島大学教育学部 1961.9) 1964年度虚位区実験報告書 テーマ 平和の研究 (東京教育大学付属駒場高等学校) 「国際理解と国際協力のための教育」の研究報告書VII ユネスコ部活動、及び学校行事による国際理解教育 昭和39年度 (高松女子商業高等学校) 国際理解と国際協力のための教育 - HRでの身近な問題を捕らえて、一第18回オリンピック東京大会について 研究報告8 (島根県立益田産業高等学校) 昭和39年度国際理解と国際協力のための教育 (人種差別に着いて) (山口県徳山市立太華中学校 1965.1) 昭和39年度ユネスコ協同学校研究報告 (三重県鳥羽市立加茂中学校 1965.2.24) 昭和39年度ユネスコ協同学校報告書 (川崎市立住吉中学校 1965.3) 東南アジアの研究-昭和39年度協同学校教育実験報告 (宇都宮市立一条中学校) 国際理解と協力のための教育活動報告 (その1) - 1965- (帝塚山学院中学校 1965.6.11) 国際理解教育実験報告書 (秋田経済大学付属高等学校) 国際理解と協力のための教育報告 1965.2.28 (帝塚山学院攻等学校) 国際理解と国際協力のための教育研究報告 (京都府宇治市立西宇治中学校 1965.4) 国際理解と国際協力のための教育研究報告 (東京都立三田高等学校 1965.5) 昭和35年度国際理解と国際協力のための教育研究報告書 (滋賀県神崎郡五箇荘町五箇荘中学校) 国際理解と協力のための教育報告 1968 (帝塚山学院高等学校)

その他の和文協同学校関係

国際理解の教育 - 教育実験5か年の歩み (日本ユネスコ国内委員会 1960) 永井滋郎先生著、ユネスコ活動 (国際理解教育) への国 (文部省・日本ユネスコ国内委員会) 及び地方公共団体 (県) の寄与、広島県ユネスコ連絡協議会資料 (第21集) (広島県ユネスコ連絡協議会・広島県教育委員会 1995) 永井滋郎先生ほか著、高等学校世界史A (第一学習社 1996)

協同学校関係国際会議英文報告書等

General Preliminary Information: Co-ordinated Experimental Activities, in School of Member States, Education for Living in a World Community, Unesco(Mimeo), Paris, 1953

Draft Final Report: International Meeting of Representatives of Associated Schools, French National Commission for Unesco (Mimeo), Sevre, France 1963

Summary Reports on Associated Schools Projects in Member States: International Meeting of Representatives of Associated Schools, French National Commission for Unesco (Mimeo), Sevre, France 1963

Lawson, T., Thye Associated Schools Project 1953-1963: International Meeting of Representatives of Associated Schools, French National Commission for Unesco(Mimeo), Sevre, France, 1963

The Associated Schools Project: An Appraisal, International Meeting of Experts on the Unesco Associated Schools Project, Unesco(Mimeo), Paris, 1973

Final Report: International Meeting of Experts on the Unesco Associated School Project (Levis, Quebec, Canada, 29 September - 7 October 1973), Unesco, Paris, 1974

Report: International Meeting of Experts on the Evaluation and Development of the Associated Schools Project on Education for International Co-operation and Peace, Unesco, Paris, 1980

Education for International Understanding: Report of an Asian Regional Seminar, Korean National Commission for Unesco, Seoul, Korea, 1982

Draft Final Report, International Congress on the Occasion of the Thirtieth Anniversary of the Associated Schools Project(Sofia, Bulgaria, 12-16 September 1983), Unesco(Mimeo), Paris, 1983

General Information, International Congress on the Occasion of the Thirtieth Anniversary of the Associated Schools Project(Sofia, Bulgaria, 12-16 September 1983), Unesco(Mimeo), Paris, 1983

The Role of the Associated Schools Project in the Implementation of the Recommendation concerning Education for International Understanding, Co-operation and Peace and Education relating to Human Rights and Fundamental Freedoms, International Congress on the Occasion of the Thirtieth Anniversary of the Associated Schools Project(Sofia, Bulgaria, 12-16 September 1983), Unesco(Mimeo), Paris, 1983

Report, International Symposium on the occasion of the 40th Anniversary of the Associated Schools Project (Soest, 12-17 September 1993), German National Commission for Unesco/Unesco, Paris, 1994

協同学校英文機関誌

Circular No1, May 1961, International Understanding at School, A circular on the Unesco Associated Schools Project in Education for International Understanding, Unesco, Paris(Mimeo)

Circular No2, October 1961 (Mimeo); Circular No3, April 1962 (Mimeo); Circular No.7, April 1964 (Mimeo)

No22, October 1971, International Understanding at School, Unesco, Paris

No25, June 1973, 20th anniversary issue, International Understanding at School, Unesco associated schools project, Unesco, Paris

No26, November 1973; No28 (1974); No31 (1976?); No32 (1976?); No33; No34; No35 - 1978

No36 (1978); No38 (1979); No63/64/1992/1993

No9, Nay/June, 1995, Looking at the ASP, Unesco, Paris

協同学校英文教材

Come visit our country, MOROCCO, Teaching material prepared within the framework of the Unesco Associated School Project, 1991, Unesco, Paris

Come visit our country, SWEDEN, Teaching material prepared within the framework of the Unesco Associated Schools Project, Unesco, Paris (1992?)

Come visit our country, INDIA, Teaching material prepared within the framework of the Unesco Associated Schools Project, Unesco, Paris (1992?)

The Life of Mahatma Gandhi, colouring book, Unesco Associated Schools Project (La Vie de Mahatma Gandhi, livre a colorier; La Vida de Mahatma Gandhi, libro para colorear), Unesco, Paris, 1995

その他の協同学校関係英・仏文資料

International Understanding at School - An account of progress in Unesco's Associated Schools

Project, Unesco, Paris, 1965

Churchill, S. & I. Omari, Evaluation of the Unesco Associated Schools Project in Education for International Co-operation and peace, Unesco, Paris, 1981

Strategie et Plan d'Action en faveur du SEA pour 1994-2000, Unesco, Paris, 1993

1994-1995 Interregional Project: YOUNG PEOPLE'S PARTICIPATION IN WORLD HERITAGE PRESERVATION AND PROMOTION, To be carried out by Associated Schools Project and World Heritage Centre, Unesco Report, International Encounter(28 February - 6 March 1995, United Nations Headquarters, New York), Associated Schools Project (ASP), Unesco

List of Participating Institutions (Listes des Etablissements Participants, Lista de Instituciones Participantes), Unesco Associated Schools Project for promoting international education, Unesco, Paris, 1995

Leaflets and Application forms for ASP

その他の英文資料

Education for international understanding: examples and suggestions for class-room use, Unesco, Paris, 1959

Meyer-Bisch, P. (Ed), Culture of democracy: a challenge for schools, Unesco Publishing, 1995
Educational Research and Development in Asia: Report of a Regional Meeting, Unesco/NIER, 1973

★ (財) 公文国際奨学財団への寄贈文献・図書

当学会宛のほか、学会の研究活動を支援していただいている同財団への寄贈も受け付けておりますので、是非事務局までお送り下さい。

★ 関連学会・団体等のお知らせ

異文化間教育学会事務局：異文化間教育学会第18回大会は本年5月31日(土)、6月1日(日)の両日、京都龍谷大学深草学舎にて開催されます。特定課題研究(テーマ：異文化間教育の実践的展開—理論と方法—)、シンポジウム(テーマ：各地の「在外子女」と異文化間教育—歴史と現在—)、自由研究発表の他に第2日目には会員の自由な意見交換の場として、ラウンド・テーブルを企画しております。会員以外の方も当日会員(有料、但しシンポジウムのみ参加は無料を予定)として参加が可能です。詳しくは異文化間教育学会事務局(TEL&FAX: 092-633-4254)までお問い合わせ下さい。

異文化コミュニケーション研究会 SIETAR-JAPAN：シーター(SIETAR: Society for Intercultural Education, Training and Research)とは文化の理解、国際問題などに携わる人々を会員とする世界的な非営利組織(NGO)です。日本でも1985年にその趣旨に賛同する日本の組織として設立され、日本の実体にあった異文化コミュニケーション活動を行っています。主な活動は、月例の講演会やワークショップの開催。年に一度の大会や合宿セミナーの開催、ニューズレターの発行等です。詳細は事務局(Tel:03-3580-0286)まで。またはホームページ

<http://www.suehiro.nakano.tokyo.jp/project/international/SIETAR>をご覧ください。

海外日本人学校ネットワーク：(東京工業大学教育工学開発センター気付)

日本人学校において日本に関する情報が不足しています。また、先生方の授業研究成果や研究発表の機会も少ないのが現状です。このような現状において同ネットワークでは様々な情報交換を行なっています。プロジェクトの趣旨・内容についてはWebのURL <http://ww.ak.cradle.titech.ac.jp>をご覧ください。また、メイリングリストの申し込みアドレスは ngp-request@cradle.titech.ac.jp へお願いします。

D. セルビー来日セミナー：1997年3月7日～14日トロント大学グローバル教育国際研究所所長、D.セルビー博士来日ワークショップ開催。「国際教育(=地球市民教育、環境教育、人権教育、開発教育、グローバル教育)」推進を目的。8日大阪：グローバルセミナー地球市民教育；9-11日東京：21世紀への地球市民教育の展開；地球市民を育成する学校教育とは；Global Teacher, Global Learner；ローカルな環境活動をグローバルな広がりへ；子供の人権意識を育てる；12日名古屋：グローバルセミナー足元から始める未来；13日奈良：グローバル教育セミナー。詳細は0425-72-8747 実行委員会事務局 03-3496-7618 日本国際交流振興会まで。